



モブ
の
俺

の
残念
な
恋愛事情



モブの俺の残念な恋愛事情



一年前、
隣の転校生「久野準」が
転入したから
俺の隣の席は毎日賑やかに
なりました

いつも楽しく会話していた
この5人、そして俺も含めて
実は全員幼馴染な関係だった

その中の一人、弥吉紫緒は
誰にでも面倒見がよく
学園の中でも人気な人だ

うん見たよ

ねね、
昨日私がおすめした
あれを見た？

昔久野が突然の離別で
俺達の関係は変わってしまった
ですが、今みんなの関係が
また昔みたいに戻っていた

まだ幼馴染グループが結成した前
俺と彼女の仲がとっても良かった
そして俺の初めての友達であった

ある日、同じ趣味の友達から
俺の好きなアニメの
コラボ商品が
今日発売との事を知り
深夜で近所のコンビニに
行く事にした

不運な事に在庫残り一つ
そして、手を伸ばした瞬間
思わない出会いに遭遇した

いえいえ、大した事ではない

譲ってくれてありがとうね

あ、あの！
もし良かったら
せめてのお礼で
一緒に食べませんか？

思われる出会いで、偶然お互いの
趣味が合う事を知り
あの夜の彼女の顔が
俺の脳に焼き付くように
忘れない

中里君もこのアニメが
好きだったの？
びっくりしちゃった

私の周りは
同じ趣味の人が
いなくて：
よかったら
もっと話さない？

その後も俺達は一週間で
何回かコンビニで食べ物を買って
いつもの公園でお互いの
趣味について話しながら
楽しく時間を過ごす事になった

出合いは突然来るように
離別も突然に訪れた。

そこそこ長く続けた
深夜の趣味談話
1ヶ月前から
急に彼女はコンビニに
来る事はなくなった。

偶然に聞いた、
あの子に関しての噂話だけが
やっけに耳に残った

そうそう
運命感じるよね

ねね、聞いた？
隣のクラスの弥吉さん
久野君と付き合う事
になったらしいね

聞いた聞いた！
確かあの二人
幼馴染だったよね

実際何があったのか
あの子と連絡を取って
確認したかったが
ですが
俺にはあの子にメッセージ
を送る勇気がなかった

「バトルドールズ」の
コラボ第二弾
ただいま全国にて
絶賛発売中
……
……

続いてニュースです、
最近XX市XX街に
不審者が出没な通報が
ありました
近くの住民は夜での外出を
控えてください。

不審者か……
今日新発売のコラボ商品
買いたいけど
ちよっと不安だな……

もし弥吉は買うに行く事
になったら……
でもさすがにないかな……

いや！
やっぱり行こう！
不安だし
コラボ商品もほしいしな



今回の在庫はいっぱいだな
：
弥吉はやっぱり来なかったな

そのまま帰るか
雨もますます酷く
なるようだし
早く帰って
お風呂を入ろう

そうだな
：
そろそろ諦める時期
だったかもな
もう弥吉の事は
忘れよう



そう思っていたのに
自然にいつも彼女と
お喋りした公園に
到着した



そして、
暗い表情の彼女は
雨も気に留めず
体を震えるながら
ベンチに座っていた

意外な事態の遭遇で
どうすればいいのか全然分からなかった
ですが、ズボ濡れの彼女をそのままに
する事もできなくて
彼女の家に送る事にした

気まずい…
一体何があったんだろう
…
喋れる話題
全然思いつかない…

もう少し
私の側にいて…
…
お願い…

では、俺は帰るね
早く風呂に入ろよ
風邪引くから
じゃな！

しばらくして
彼女の家に到着した
結局送る途中で
何があったのか
を聞く事ができなかった

ドアに向かって行くその時
突然、服が引っ張られた感じがして
振り返ったら
彼女が服の端っこを掴まっていた



突然彼女に抱きられ
悲しい表情で
驚きな一言を言った

私を慰めて
お願い……
今だけは
お願い……
抱きしめて

目を覚ませ！
自分で何を言ってるのか
分かってるよね
もっと自分の体を大事にして

そうか……
やっぱり私ではだめなのね
だから……

こんな彼女見たことなかった
そのまま帰ると決めてたのに
やっぱり彼女の表情を見て
ほっとけなかった



…
わかったよ…
それで君の心の疲れが取れるなら
俺が協力しよう
でももし途中やっぱり嫌になったら
すぐにでも言ってね



キスを受け入れたあと
彼女は俺の手を引いて
部屋に入り
ベッドに入った



…
何をすればいいだろう
俺初めてなんだけど…
全然分らない！
とりあえず
AVの真似にすればいいのかな

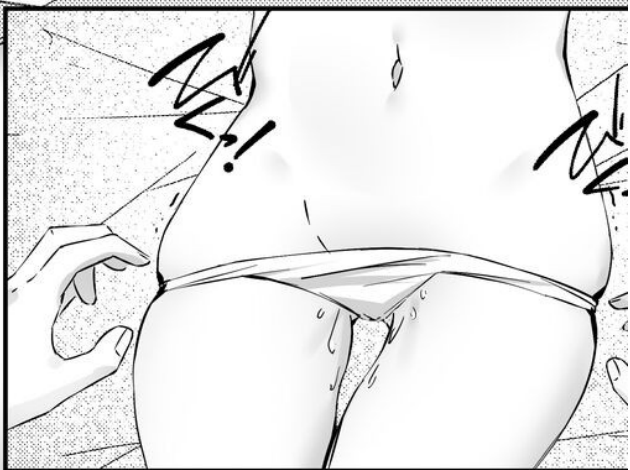


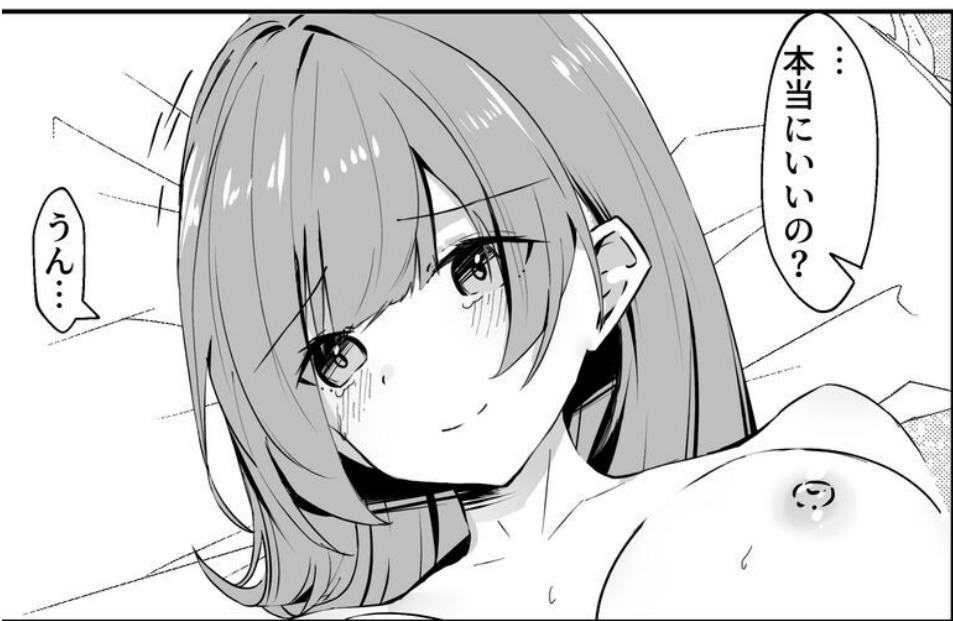
胸が柔らかい
そして温かい

まずは前戯で
濡らしていけば
いいのかな



んあ…
…
下もじじって…







う、うん
すこし痛いけど
大丈夫：
全部きて！

大丈夫？
痛みは平気そう？

せ、狭い

中で肉が絡み合って
自分でするのと全然違う

気持ちいい
…ツ！！





あのまま寝た俺だったが
起きた時
もう隣に彼女の姿はいなかった

まるで昨日の出来事は
夢のようだった

弥吉の家から急いで
帰宅し
そして着替をしたら
ギリギリ遅刻寸前に
学園に着いた

あ、あの
昨日の事について
ちよっと話したいけど……
いいかな

ご、ごめん！
先生に呼ばれたの
はやく行かないとだめなの

その後何度も隙を見て
彼女に話しかけようとしたけど
しかし、彼女はすぐなにか理由をつけて
俺を避けていた

その次の日も、次の次の日も
彼女と話す事が叶わなかった

あの後
二週間過ぎて
相変わらず弥吉と会話する事が
叶わなかった
そんな時、またある噂話を耳にした

すこし前
弥吉さんは久野君に
振られたらしいよ

え？
そうなの？！
あの二人が？

あ、でもすぐ
復縁したらしいよ

なんだ、
あの二人が分かれる
わけ無いじゃん

おばさんに明日の晩ごはん
頼まれたの
明日作るに行くね

あ、
いつも
ありがとうな

寝たフリすれば昔と同じで
俺の世界は穏やかになると思ったのに
隣の音がなぜかいちいち俺の心をかき混ぜる

元の俺に戻るよう
俺は頑張っ
て
弥吉に関しての事を
忘れようとした

でも俺の心はもう
昔に戻る事ができなかった
……



弥吉さん
また久野君に
振られたらしいよ

詳しい事情
私も分からないけど
そもそも復縁してなかったかも

え?!
なにになに?
前は復縁したばかりじゃん

え?
そうなの?!
あの二人はお似合い
だと思うけどな...

表面上
昔の生活に戻った俺ですが
最近ずっと心が乱れていて
不安感と焦りの感情に
飲まれていた

もう弥吉の事を忘れようと
決めていたのに
未だにすこしあの子の声
また名前を聞いただけで
心が痛む

乱れた俺の心は
噂の話しはやけに
俺の心に刺さる

塩と砂糖間違えたよ
それにそろそろ鍋が噴くから
はやく火を止めた方がいい
あと包丁の使い方も普段より
下手
危ないよ

.....
昨日兄さんの洗濯当番
私の服を洗濯機に入れ忘れたよ

それと先
おばさんから電話で
明日、送りものが
郵便ボックスに
届くらしい
私は明日用事があるから
兄さんが取り

もう俺に構うな!!

黙れ…

そう…

確かに兄さんは
何もかもだめな人で
おまけに弱虫

でもね…
何事もちゃんと
スジを通る人だと信じている

それが悪い事でもあるかな

兄さんは
今本当に何がしたいの？
兄さんならちゃんと自分の
気持ちと向き合う事できる人でしょう?!

また…
昔みたいに無理だと思いこんで
諦めるの？
…
ちゃんと考えてね
私は先にお風呂に入ってくる



彩日には悪い事したな…
明日ちゃんと謝らないと
…
…
…
そうだな、俺の本当の気持ちか



中里君もこのアニメが
好きだったの？
びっくりしちゃった

私の周りは
同じ趣味の人が
いなくて…
よかったら
もっと話さない？

認めよう
いつの間にか弥吉の事が
好きになった
そして離したくないと思った
嫉妬もした
そうだな…
また諦めるのか…
また諦めたら
今度こそ妹に完全に失望させるな

頑張ろう！
まずちゃんと話し合いしないと
何もかも始まらない
明日絶対捕まって見せる

決心を固まって、弥吉との楽しい時間を
思い出せながら、夢の世界に入った

と決心を固めたけど
全然捕まらない！

どうすればいいのかな
放課後すぐ校門に言って
待機してみるかな
そして最後の手段
自宅訪問

え…?!

そう思った時
スマホが振動だした
取り出して確認すると
妹からのメッセージだった

手伝ってあげる
放課後、一人で空き教室に
来なさい

手伝ってあげる
放課後、一人で空き教室に
来なさい

ありがとう！
あのさ、
いつもありがとうは…
そして昨日はごめん！

うん



待って！

ご、ごめん！
教室間違えたみたいで



わかった…

すこしまって、
俺の話をちゃんと聞いて
頼む
すこしだけでいい！





えっと…
前の夜の事は気にしなくていいや…
違う



コンビニで出会った日から
君と過ごした時間は楽しかった
えっと
えい！
つまり！

好きだ！

俺と付き合ってくれ

君の昔の事について
俺は何も気にしない…
との嘘になるね、聞かない！
そしてそれを理由にして君に酷い事
言わない
君の心の整理は俺も手伝う
必ず準の事を忘れるよう　うると誓う

だから
もし俺の事
すこしだけでもいいと思ったら
俺と付き合う機会をください！

うん…
分かった…



家に入ったすぐ
俺達は強く抱きしめ
キスしながら
弥吉の部屋に移動した



一緒に帰宅の時
弥吉は赤面しながら
彼女の家に誘った
俺は頷いてそのまま
彼女の家に向かった



もし痛かったら
言ってね

今日は全部私に回せて





そろそろ入れるの
前準備をするね

はぁ…♡



俺も…
弥吉のソコつるつるして
柔らかく
すごく気持ちいい
…
はやく入れたい…

はー♡

はー♡

んっ

じゅわん♡
ぐちゃ♡

どう…かな？
私の体
んあ…
私全身敏感になって
すごく感じちゃう…

ぐちゃ♡
ぐちゃ♡

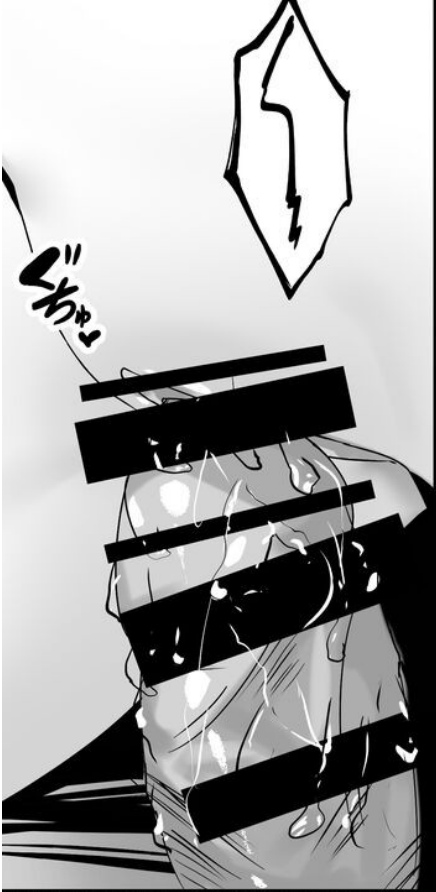
ぐちゃ♡
ぐちゃ♡

はぁ…♡

あゝ

ぐちゃ♡
ぐちゃ♡

じゅわん♡



ふ、深い奥に当たる
：
あア...

はあ...こ

あっ♡♡

んあっ

あッ

んっ

ゴッ

ゴッ

パンッ
パンッ

俺も
奥に当たるたびに
興奮が高まる

くちゅ♡
じゅ♡





あとがき

今回始めて漫画を描きました。

初めての挑戦、いろいろな問題に巡り合って、ネットで検索し解決策を探っている勉強になりました。

ストーリーを考えると絵に落とす事は全然違うのが最初の感想だった。
そして日本語は私の第一言語ではなかったのに、
似合う言葉探しも地味に時間かかりました。

いつもイラストだけ描いていましたけど、
今後は漫画もたくさん描きたいと思うようになりました。

このストーリーは4人分の予定ですが、
シリーズにするのかどうか、実際のところまだ決めていません。
一応残り3人分のストーリー概要は書きましたが、
すべてはスケジュール次第になります。

最後に
今回の内容がみんなにご満足できれば幸いです。

次の漫画でもまたあ会いできる事を願っています。



https://twitter.com/Ka11_CA



<https://www.pixiv.net/users/923205>

◀ 新情報や、他のイラストのチェックはこちら

支援はこちら ▶



<https://kanane.fanbox.cc/>

